

神戸バハイ共同体の社会的認知

Social Recognition of Kobe Baha'i Community

須田和子

Kazuko Suda

98年4月、神戸バハイ共同体は、兵庫県における震災復興のシンボルとして、世界に開かれた交流、協力の拠点施設、国籍を超えたあらゆる人々が集い、ふれあう場、「ひょうご国際プラザ」の開設記念式典に招待されました。各国総領事をはじめ、著名人、国際交流・協力関係者で埋め尽くされたサロンで、主催者兵庫県知事の挨拶、兵庫県議会議長と在関西領事団長の来賓祝辞があり、私達も兵庫県から NGO として認められた喜びを味わいました。同時に開設記念生け花インターナショナル神戸支部花展が開かれ、各流派代表の作品や、それぞれお国柄を表した総領事夫人たちの出品コーナーなども設けられ、華やかなオープニングでした。

明治の神戸港開港以来、神戸市には、各国の領事館が置かれ、多くの外国人が住居を構え、外国人にとって暮らしやすい国際的な町だと云われています。現在、兵庫県には108カ国10万人(県人口の約2%)が、そのうち神戸市には約4万5千人(市人口の約3%)の外国人が住んでいます。しかし、在住する外国人の中で、最も多いのは、韓国、朝鮮人で、およそ3万人と全体の3分の2を占めています。その次に多いのは中国人で約1万人です。これは明治以来の不幸な歴史的事情によるもので、日本で生まれ育った二世、三世でも、友達にいじめられる、本名を名乗れない、就職が出来ないと言った差別や偏見に苦しんでいます。

98年7月、神戸バハイ共同体のもとに、兵庫県知事公室国際局長より、すべての県民が国籍を超えて互いの文化、生活、習慣、言語等を理解し、人権を尊重する「国際性豊かな共生社会の」実現に向けて定められた、「地域国際化推進基本指針」に対するフォローアップのための「NGO 団体等に関する調査」の依頼が届きました。又、今年9月には、兵庫県知事公室審議員より、兵庫県の長期総合計画である「兵庫 2001 年計画」 ころ豊かな兵庫を目指して が2000年度末をもって終期を迎えるため、21世紀にふさわしい新しいビジョンをこれまでのような行政主導ではなく、市民や企業、団体グループが協議して創っていく『21世紀地域ビジョン会議』への参加要請がありました。

「未来を書くのは誰か？」の出番です。

神戸バハイ共同体が、この様に社会的に認知され、意見や提言を求められるようになったきっかけは、91年11月、ソ連の「ソユーズ TM11」で日本人発の宇宙飛行をした TBS

とよひろ
報道局次長、秋山 豊寛 氏の講演「地球に国境はなかった」を聞きに行ったことからです。当日、ホテルオークラ「平安の間」1400席は満員の盛況でした。秋山氏に、「赤いバラの表紙のパンフレット」を渡したく面会を申し込んだところ、「誰にも会わない」とのことでしたが、「あなたの贈り物は必ず渡してあげる」と係員がパンフレットを預かってくれました。この

講演会を主催していたのが神戸国際交流協会で、受付でもらったパンフレットでその活動が分かり、ぜひコンタクトをと考えました。

そのパンフレットには、今世紀最大のニュースは人類の月面着陸と言われ、その意義は、真暗闇の宇宙に浮かぶ青白い球、地球の姿を見た事により、宇宙船地球号...、運命共同体、すべての人が世界市民を意識した事と言われていることなどが記されています。

地球はひとつの国であり、人類はその市民である。¹

1992年1月のはじめ、「赤いバラの表紙のパンフレット」を兵庫県知事と神戸市長に贈呈するため、県庁と市役所に行ったつづきに、ポートアイランドの神戸国際交流会館を訪ねました。対応して下さった国際部国際交流課課長が、バハイ共同体の説明を聞いて、国際交流団体として登録するよう勧めて下さいました。人数が少なくても、国際的に活動している団体だから将来を見こんでとの事で、「登録用紙を後ほど郵送するから、記入して送ってください。登録の審査はありますが、大丈夫でしょう。もうすぐ交流団体の懇談会があるので招待状を送るから出席してください」と大変好意的でした。

バハオラの大業は宗教と言う言葉で理解されているものをはるかに超えたものである。もし、世界の僧侶や牧師の宗教組織が宗教とすれば、バハイは宗教ではない。もしバハイが宗教であれば、他の宗教組織は宗教ではない。私たちが、バハイを宗教の範疇に焦点を合わせて伝えるならば、バハオラの使命と、彼が確立されようとしている世界秩序に、大きな損害を与えるであろう。（「近づいてきたバハオラと人類の出会い」）

1月の中頃、その国際交流課課長が、事務員と共に、交流団体の実態調査のため、100余の全団体をまわられ、私宅（神戸バハイ共同体の事務局）へも来られました。そして、「バハイの布教、宣布だけではなくて、市民に開かれた、市民の参加できる催しをしてほしい」と言われました。こうして、懇談会や連絡会に出席するようになり、10月には、神戸で開催した、リヒテンシュタイン公国アルフレッド王子の講演会「未来学から見たバハオラのビジョン」の案内状を各交流団体へも送付、神戸バハイ共同体の鮮烈なデビューになりました。

¹ バハオラ、「落穂集」、#117

した。12月、「国際交流団体一覧」に初めて掲載されました。これは、ひとえに、聖なる年に際して、「バハオラの名と使命をいかに宣言するか」導いてくださった賜物と感謝しています。

1992年にはバハオラ昇天 100年記念式典参列、バハイ世界大会(ニューヨーク)出席の感激と高揚で、1993年10月には「世界市民講座:地球はひとつの国であり、人類はその市民である」を神戸国際コミュニティーセンターで開講しました。これは、1994年6月まで、毎月一度、9回開き、国際交流協会の機関紙、「ajisai」(隔月刊)の「会と催し」欄に掲載されました。続いて、1994年9月から「世界市民フォーラム」世界平和を目指して(ビデオ&トーク)を開きました。

1995年1月の震災後、フォーラムのテーマを「約束の日の到来」に変えました。同年9月、兵庫県国際交流協会企画課長から、「国際交流事業に関する行事計画等の照会について」(依頼)と「平成7年、国際交流事業助成制度募集案内」が届き、「世界市民フォーラム」は、協会の情報誌、「COME HIA」(季刊)95年秋季号の「国際交流ひょうごの動き」欄に掲載されました。「世界平和と人類繁栄のため、世界中で活動するバハイのビデオを上映、地球のビジョン“ONE WORLD ONE PEOPLE”を語る」フォーラムの内容も紹介され、東京や大阪の団体からも問い合わせがありました。同フォーラムは、1997年2月まで30回続けました。「バハイ世界大会 in ニューヨーク」「バハイ世界の広がり」をご覧になった人々は、「感動した」と言っていました。年配の方々は、つくづく「今の若い者は幸せや、自分たちの若いときは、鉄砲持って戦ったんだから…。お互い殺し合いをしたんだから…」と言われました。

今日こそは、神の最もすばらしい恩寵が人々の上に注がれている日であり、彼の最も偉大なる恩恵がすべての創造物の中に注入されている日である... (バハオラ、「落穂集」、#4)

人類の歴史上における新時代の幕あけを告げたバハオラの基本となる教えは、人類の統合であり、それは、今日の社会機構の抜本的な変革を意味しており、この変革は、かつてまだ世界が経験したことのないものである...。まさに、全文明社会の改革と軍備放棄を呼びかけているのである。(ショーギ・エフェンディ、「バハオラの世界秩序」)

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇、又は、武力の行使は国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。(「日本国憲法」、第9条)

悲惨な戦争を経験し、平和を願い、平和憲法を守る日本人が、バハオラの目的とビジョン 人類の和合、最大平和の確立、地球の統一 に共鳴しないはずがありません。暑い夏

が巡ってくると、8月6日、広島原爆、9日、長崎原爆、15日、終戦記念。日本列島は総命日。平和への熱い思いが高まります。今年、私は8月を指定して、高松 FM81.5 に出演し、世界平和への望みや願いではなく、確証を語ってきました。多くの方々に「世界平和への確証」「バハオラー地球のビジョン」を贈呈しました。読んでくださった方々の中には、バハイの理解者、支持者になって、私の活動を励ましてくださる方もいます。

こうして神戸バハイ共同体のもとへは、兵庫県国際交流協会が主催する「国際化セミナー」、「心の国際化フォーラム」の案内が送られてくるようになりました。1997年7月に

は、国際連合日本政府代表部、特命全権大使、^{おわだひさし}小和田恒氏(皇太子妃雅子様の父上)の講演「国際社会における日本の役割」を聴きにいきました。大使は2年間国連で働いて感じたこととして、次のようにお話になりました：

93年東京サミット以来、世界の開発のための旗振りは日本が一番である。世界がますます相互依存を深める中で、日本は第3の開国と言われる精神的転換点にきている。世界の中で日本は、政治的、経済的に、治安、環境面でも、又、最先端技術国としても、「日本がどういう哲学を持って、どういう行動をするのか」「世界がどうあってほしいのか」「これが正しい」と勇氣と見識を持って世界をひっぱっていく日本人の心構え、日本の役割、憲法前文のとおり「国際社会の中で評価される名誉ある地位を占める」ことが求められている。

．．．日本国民は恒久平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。我らは平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと勤めている国際社会において名誉ある地位を占めたいと思う．．．(日本国憲法・前文)

今こそアブドル・バハの約束、燎原の火、日本へです：「．．．日本は燎原の火のように燃えるであろう。日本は神の大業を広げるのに最も驚くべき能力に恵まれている。日本は他

の国と共に、世界がやがて目撃するであろう人類と国との精神的目覚めに先駆者としての役割を演じるであろう」。

神戸バハイ共同体は、今、神戸市および兵庫県の「国際交流団体一覧」に掲載され、インターネット上でも公開されています。外務省監修の全国版「NGO・団体名鑑」（全国の約3200団体収録）にも載っています。また、「グループ名鑑2000」にも掲載されインターネット上で毎年公開されています。「震災復興2周年がんばれ！こうべっこ」で始まった、神戸国際交流フェアに毎年参加出展もしています。これらを見て英字新聞、ザ・デイリーヨミウリからファックス号外が送られてきます。環境事業団、地球環境基金から97年、地球温暖化防止京都会議の案内に続き、地球環境市民大学校主催の海外派遣研修の参加の募集がきました。また、神戸大学発達科学部付属小学校から国際化教育の講師依頼があり、エラヘ・ガディミさんとお出かけるなど、問い合わせや、さまざまな団体からの呼びかけや案内がくるようになりました。こんなこともありました。97年夏、新制作座の若い座員が訪ねて来ました。「新制作座フェスティバル 万国旗を子供たちから奪わないで！」の上海、南京、北京での訪中講演を終えて、九州を皮切りに全国講演の途中、関西にきている新制作座は、チケットをプレイガイドなどでは一切販売せず、座員が2、3ヶ月前に現地入りして、平和団体などを一つ一つまわって買ってもらう方式とのこと。はつらつ座員と意気投合。バハイの話も弾んで、昼食を共に…。尼崎アルカイクホールでの公演を見にいきました。歌と踊りとドラマ。オープニングは、大スクリーンにキング牧師、あの最後の演説、ウイシャルオーバーカム。平和祈念と外国侵略謝罪。そしておおらかな人間賛歌。すばらしい舞台でした。中国で熱烈歓迎を受け、北京では、李鵬総理夫妻はじめ、政府高官多数が舞台を觀賞されたとのこと。

今年春、神戸公演で主役をはる座員がやって来て、「バハオラ 地球のビジョン」に目をとめて、ぜひ読みたいと言うので、プレゼントしました。

私たちバハイは、聖約に信仰深く、祈り、伝え語って、機構、共同体の運営に力を合わせて、それぞれの地域に草の根を下ろし、市民の受け皿、市民のための避難所、心のよりどころにならなければと震災後、特に思っています。そして、バハイ国際共同体が国連 NGO として国際レベルで活動しているように国レベルでも、地方レベルでも活動して、社会的に認められることが、守護者ショージ・エフェンディの言われた人口の2%につながると、私達神戸バハイ共同体は、神戸市3万人、兵庫県11万人を目指して取り組んでいるところです。

バハオラによってこの世に吹き込まれた精神は、目に見える秩序、バハオラの名のもとに、バハオラの原則に完全に一致し、バハオラの法に従って機能を果たしてゆく秩序として具現化されなければ、そして、そうされるまでは、人類に与えられることは決してない。(ショージ・エフェンディ、「バハオラの世界秩序」)

引用文献

バハオラ、「落穂集：選集1」。大阪：バハイ出版局、1982年。

「近づいてきたバハオラと人類の出会い」

日本国憲法。

Shigi Effendi, The World Order of Baha'u'llah. Wilmette: Baha'i Publishing Trust, 1982. (ショーギ・エフェンデイ、「バハオラの世界秩序」)